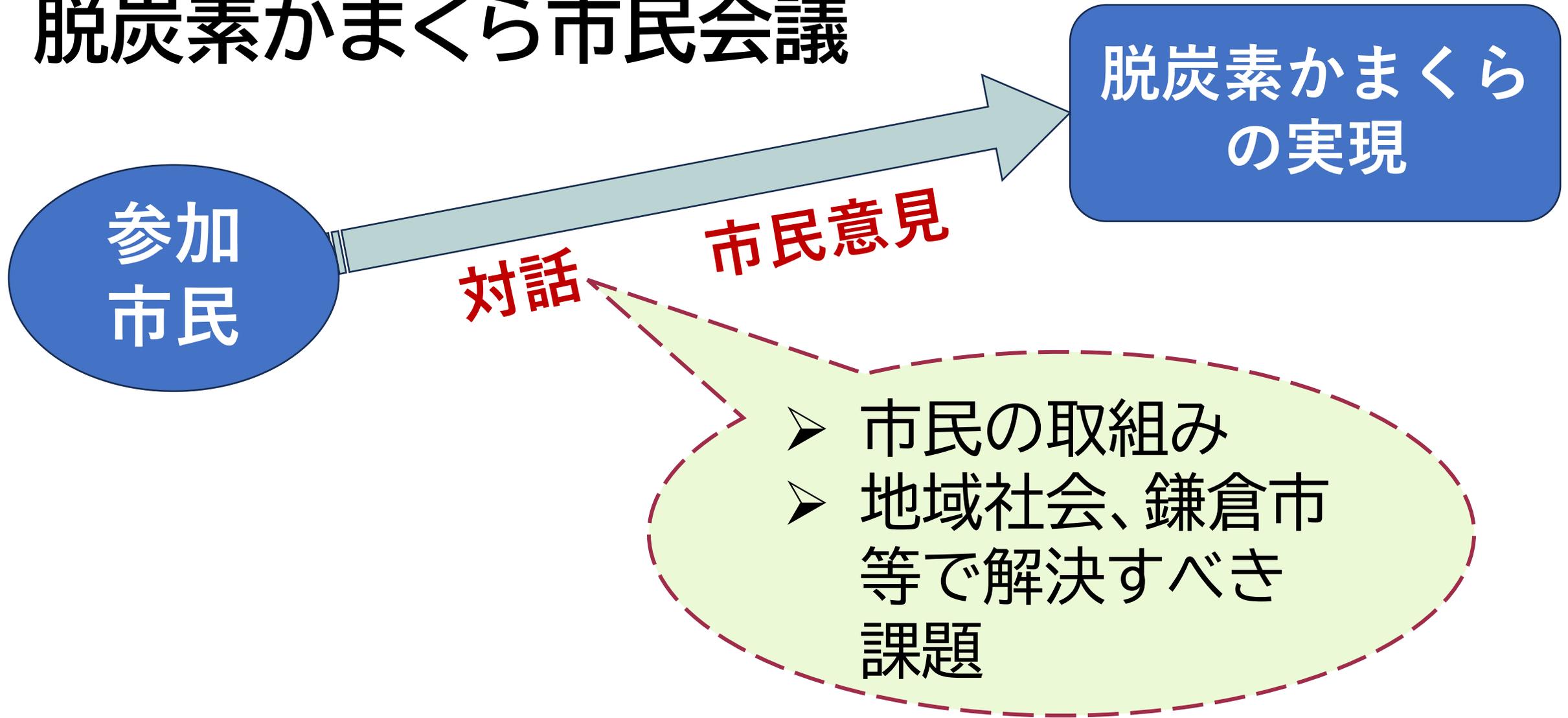


脱炭素アクションに取り組んでみる

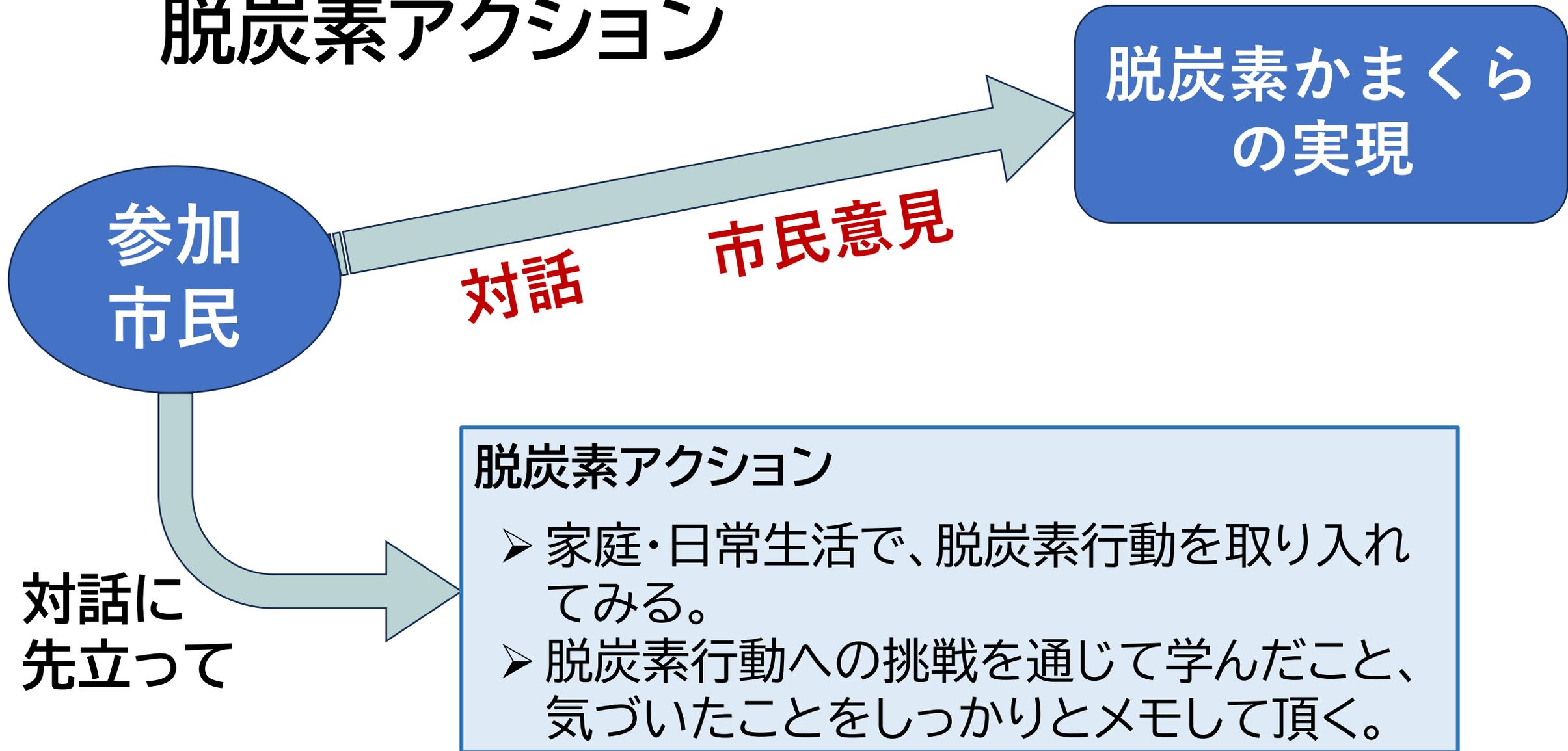
10項目の「脱炭素アクション」から2項目について、
参加市民の皆様に実践又は実践に向けての検討を
お願い致します

説明：「脱炭素かまくら市民会議実行委員会」事務局
一般社団法人環境政策対話研究所
代表理事 柳下正治

脱炭素かまくら市民会議



脱炭素アクション



ライフスタイルと温室効果ガス(CO₂等)の排出の関わり

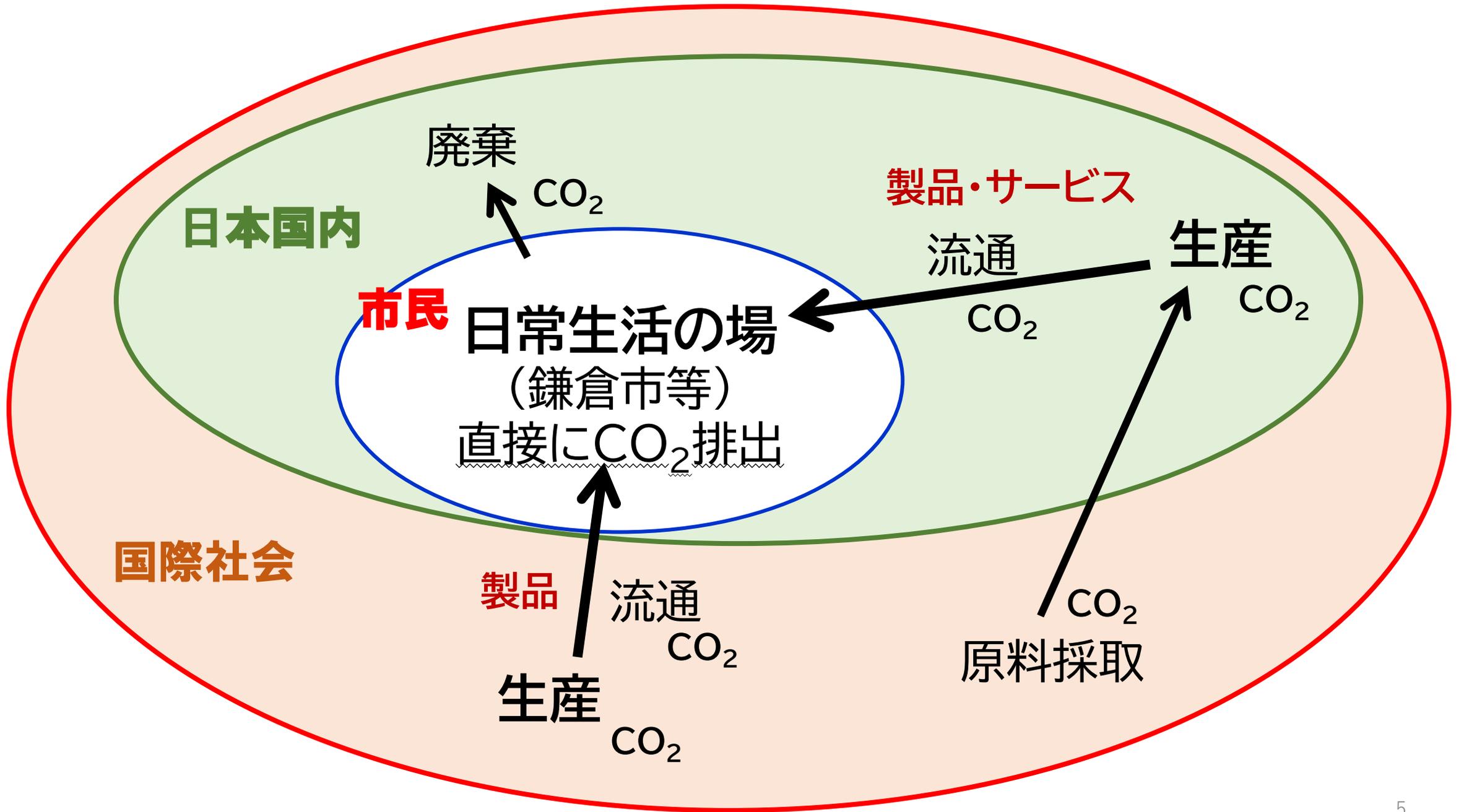
1. 家庭生活や日常活動において直接にCO₂等を排出する。

- 家庭でのガス燃焼での料理や入浴
- 石油・ガスストーブでの暖房
- 自動車の運転

2. 電気の利用・・・実際にCO₂等を排出するのは発電所にて

3. 市民が購入する製品やサービスに伴うCO₂等の排出

その製造・流通・廃棄の過程でCO₂等を排出している。排出の場は、鎌倉市内とは限らず、日本国内、ものによっては海外で排出される。



お願い:10項目の脱炭素アクション

日常生活においてCO₂の排出削減に関わる行動は、約60種類に分類することも可能(IGES/国立環境研究所)。

- 10項目の脱炭素アクション・・・「脱炭素かまくら市民会議実行委員会」は、特に重点を置くべき10の行動「脱炭素アクション」を絞り込みました。皆様にはそれぞれその中から2項目の実践をお願いします。
 - この10項目には、直ちに実践可能なものから、時間をかけて検討しなければならない課題も含まれています。
 - 皆様には、この課題に対しては、直ちに実践するのではなく一歩立ち止まって、実践するにはどうしたらよいかなど、ご家族と相談するなど、検討していただくことをお願いします。

日常生活・活動に伴うCO₂の排出(間接的なものも含む)

分野	排出に関わる要素	主な対策
移動	自動車(ガソリン車、ディーゼル車)の走行	<ul style="list-style-type: none">• EV等の脱炭素・低炭素車への転換• 公共交通の利用促進• 徒歩・自転車の利用• 効率的な移動で日常生活が可能なまちづくり
住まい	<ul style="list-style-type: none">• 暖冷房、照明、料理、入浴、• その他家電製品の利用等	<ul style="list-style-type: none">• 屋根への太陽光パネルの設置• 住宅の断念性能の向上• 省エネ家電等への買い替え• 省エネ行動
消費・食	<ul style="list-style-type: none">• 製品・サービスの購入・利用・廃棄等に伴う間接的な排出• 食材の購入・廃棄等に伴う間接的排出	<ul style="list-style-type: none">• CO₂の低排出の商品の選択• 使い捨てプラスチックの削減• 資源循環の推進• 旬産・旬消、地産・地消• 食品ロスの削減

10項目の脱炭素アクション

分野		脱炭素アクション
移動	1	自家用乗用車を電気自動車（EV）に切り替える
	2	都市内又は近傍地への移動には、鉄道・バスなど公共交通機関を使う
	3	日常的な買い物は徒歩・自転車で行く
住まい	4	自宅を断熱リフォームする
	5	自宅の電球をLEDにする
	6	自宅に太陽光パネルを設置する
	7	自宅の電力を再エネの契約に切り替える
食・消費	8	旬産旬消・地産地消に配慮された食材を購入する
	9	食品ロスをゼロにする
	10	衣服のリペア、リユース、リメイク、アップサイクルに取り組む

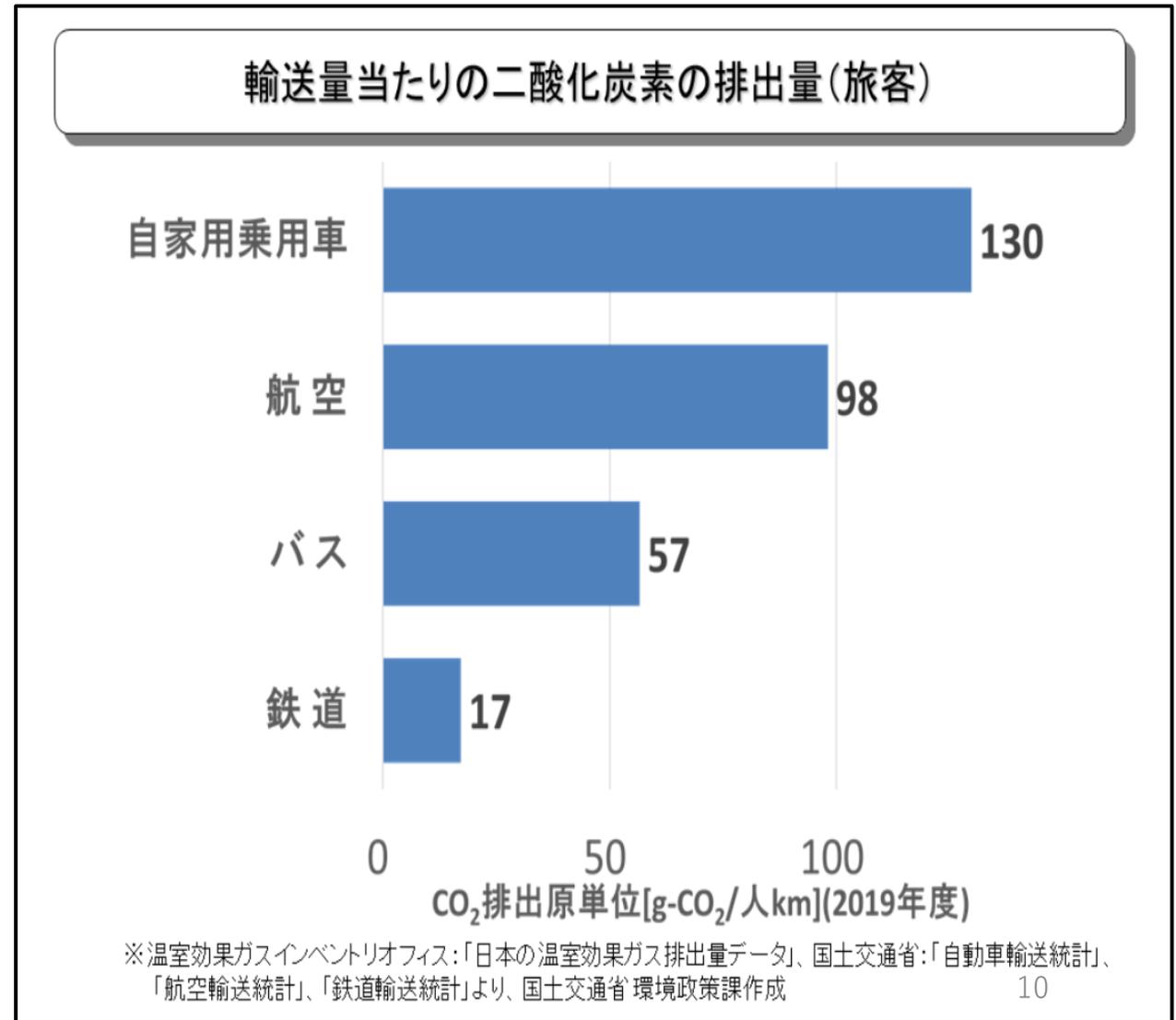
1. 自家用乗用車を電気自動車（EV）に切り替える

- 移動（交通）に伴い排出されるCO₂は、日本全体の排出量の17.4%（2021年度）。その排出量の8割以上が自動車からの排出。
- 走行時にCO₂を排出しない電気自動車（EV）の導入促進が急がれる。
- EV促進には充電設備の普及が欠かせない。充電設備の再生可能エネルギーでの電気の利用が進むことで、CO₂排出が大幅に減少する。
- EV購入・・・一般に初期投資が高い。これに対し国・自治体による助成制度あり。
- また、共同住宅における充電設備の設置に対しても助成制度。
- 現在、国際社会は、自動車の脱炭素技術開発の激しい競争を展開。



2. 都市内又は近傍地への移動には、鉄道・バスなど公共交通機関を使う

- 人の移動において、選択する移動手段によってCO₂排出量は大きく異なります。
- 右図は、1人が1Km移動するときどれほどのCO₂を排出したかの2019年度実績を示しています。
- バス運行の困難な地域におけるコミュニティバスは貴重な存在です。



3. 日常的な買い物は徒歩・自転車で行く

- 徒歩や自転車での移動は、CO₂を排出しません。
- 日常的な買い物等が徒歩・自転車で可能なまちづくりが望まれます。

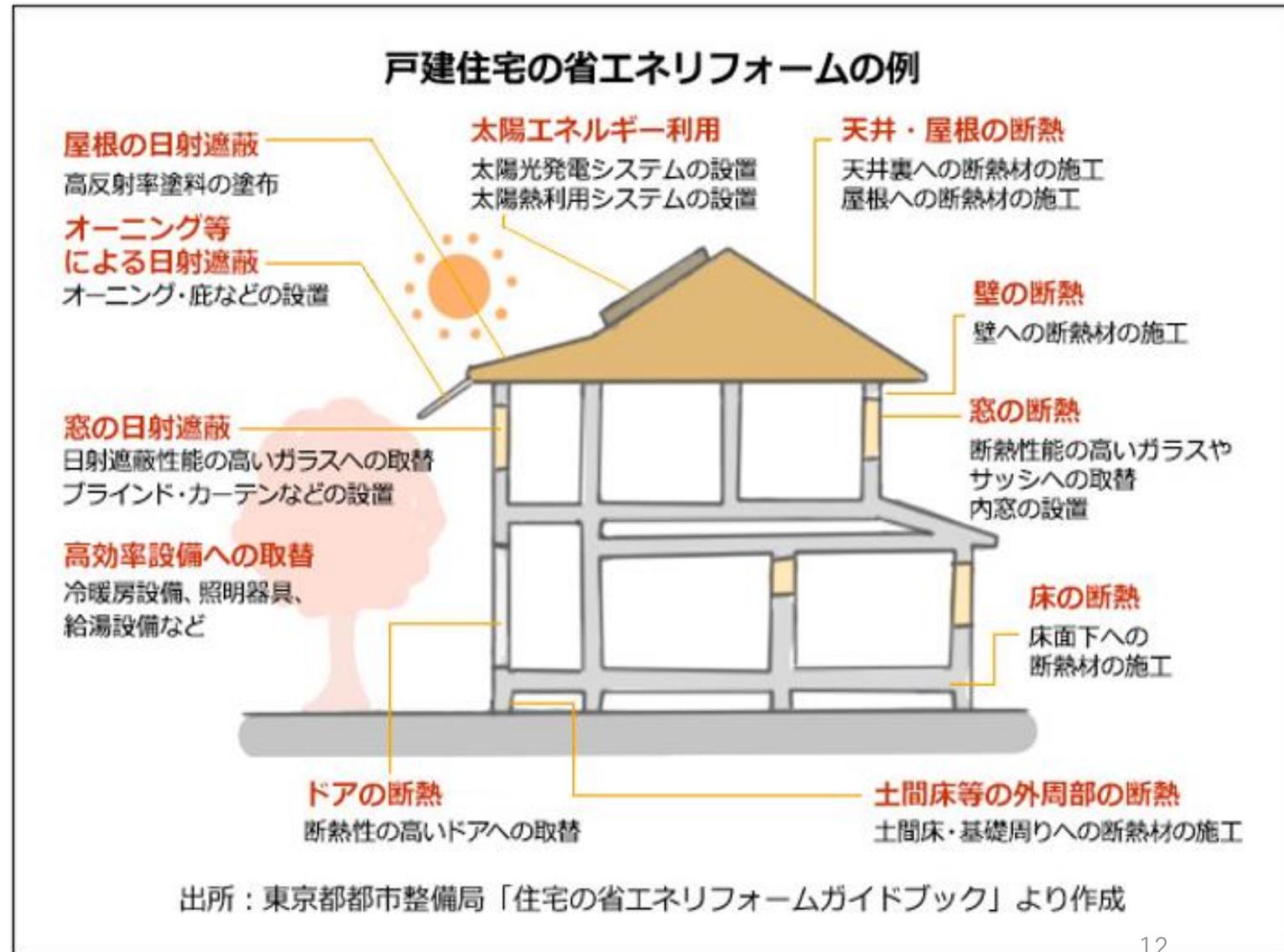


自転車道（川崎市川崎区）



4. 自宅を断熱（省エネ）リフォームする

- 日常生活の中で省エネルギーを大幅に高め、CO₂排出を削減する上で、住宅を断熱化構造にしたり、窓、床、天井、外壁の断熱リフォームすることが大変に有効。
- 既存住宅の断熱（省エネ）リフォームには、かなりの費用を要します。これに対して国（国交省、環境省等）や県による助成制度があります。

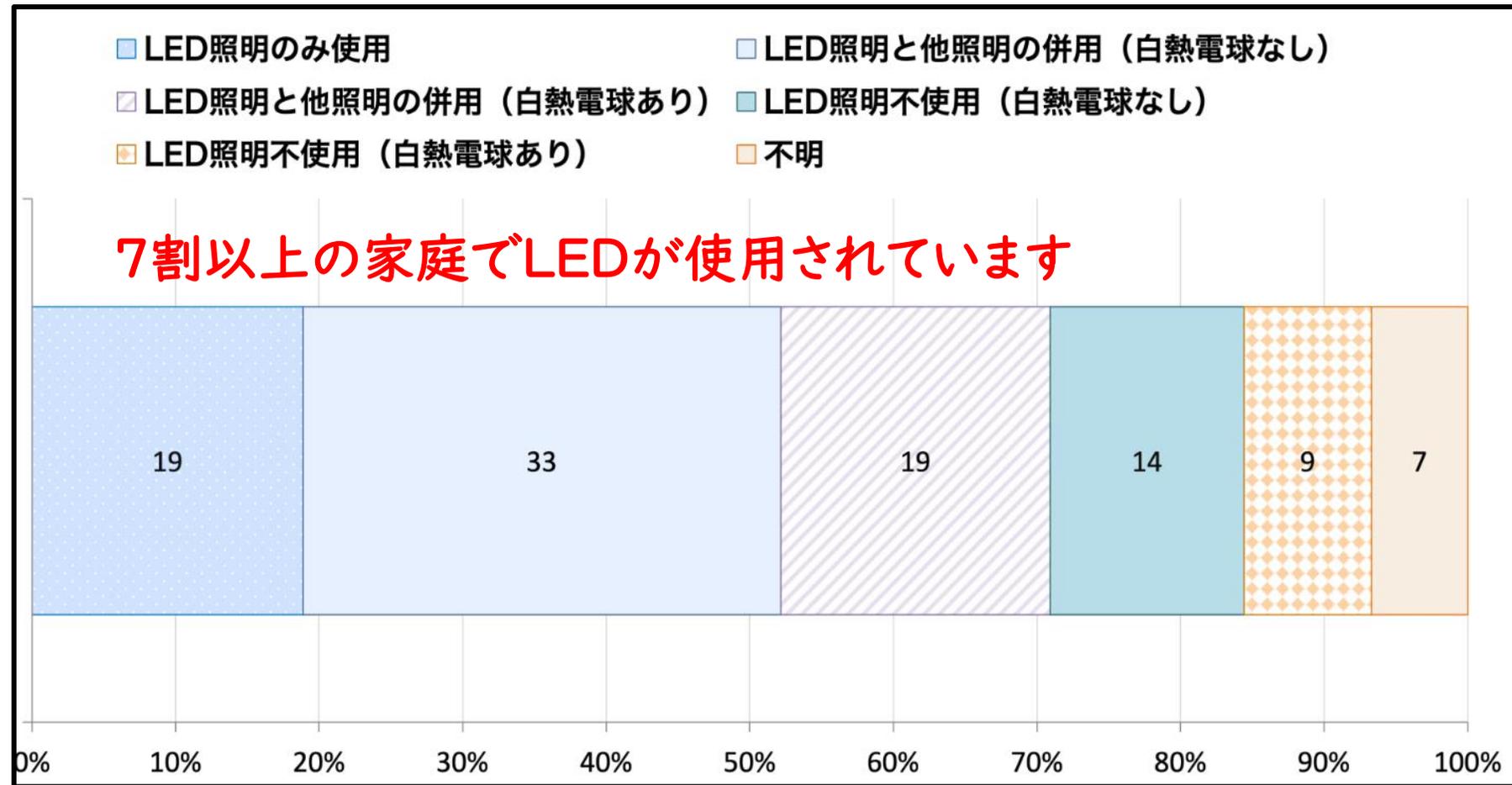


5. 自宅の電球をLEDにする

家庭における照明の実態調査

LEDは、白熱球に対して80%以上、蛍光灯に対して50~60%程度の省エネ効果があるとされています。

その分だけCO₂の排出が削減されます（環境省、メーカーのデータより）。



2021年度環境省調査より

6. 自宅に太陽光パネルを設置する

- 自宅の屋根に太陽光パネルを取り付け、実質的に再生可能エネルギーによる自家発電で自宅で使う全ての電力をまかなうことで、CO₂の排出量が使用段階ではゼロに。
- 東京都、川崎市、京都府等では新築住宅等に太陽光パネルの設置を義務付ける制度が創設。



環境省資料より

□ 神奈川県「0円ソーラー」

- 事業者が初期費用を負担して、住宅に太陽光発電を設置し、発電した電力の売電料もしくは設備のリース料により、初期費用を回収する方式。
- 住宅所有者は初期費用0円で太陽光発電を設置できる。設置後、一定期間（概ね10年間）は、発電された電気のうち使用した分の電気料金もしくはリース料の支払いが必要ですが、一定期間経過後は、設備が住宅所有者に無償譲渡される。

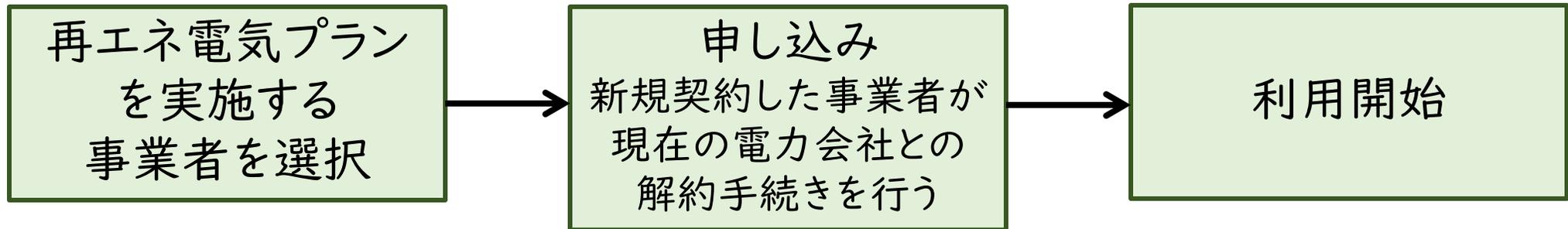
7. 自宅の電力を再エネの契約に切り替える

- 小売電気事業者が提供する「再エネ電気プラン」を選ぶことで、再生可能エネルギー由来の電気に切り替えられる。

環境省の関連情報

<https://ondankataisaku.env.go.jp/re-start/howto/04/>

- 再エネ電気プランの利用までの流れ



8. 旬産旬消・地産地消に配慮された食材を購入する

• 旬産旬消

季節の野菜や果物をふんだんに取り入れた食生活にすることで、これまで温室栽培の野菜や果物を食べていた分を露地栽培に転換する。これにより、野菜や果物の生産に起因するCO₂の排出量が削減される。

• 地産地消

地域の野菜をふんだんに取り入れた食生活にすることで、これまで県外産の野菜を食べていた分を可能な限り県内産に転換する。これにより、野菜の輸送に起因するCO₂の排出量が削減される。



9. 食品ロスをゼロにする

- 日本の食品ロス・・・年間472万トン(1人当たり1日103g:おにぎり1個)
事業者での発生と家庭での発生が半々
- 焼却・・・食品ロスを焼却するとCO₂が発生します。
- 埋め立て・・・食品廃棄物を埋め立てると、CO₂の約25倍の温室効果を持つメタンが発生します。

食品ロス対策(政府広報より)

お買い物編

- 買い物前に、食材チェック
- 必要な分だけ買う
- 期限表示を知って、賢く買う

ご家庭編

- 適切に保存する
- 食材を上手に使い切る
- 食べきれぬ量をつくる

外食編

- 店選び
- 食べ切れる量だけ注文
- 残った食事は店と相談し持ち帰る

10. 衣服のリペア、リユース、リメイク、アップサイクルに取り組む

- 気に入った衣類を厳選して買い、大切に長く使い、壊れたら修理し、必要なくなったものはリユース、リメイク・アップサイクルすることで、衣類を新しく買い・捨てる量が少なくなる。これにより、新しい衣類の生産、輸送、流通のためのCO₂の排出も減る。



<https://sanpai-media.com/column/4718>

- リペア: 修理・手直しをする
- リユース: 古着を、そのまま着たり、譲ったり、売ったりする。
- リメイク・アップサイクル: 古着や不要になった衣料品を新たな価値を持つものに生まれ変わらせることです。単に古着を捨てるのではなく、創意工夫を凝らし、デザインや機能性を加えることで、新たな用途や価値を生み出す